

令和7年度 学校評価報告書(松山市立幼稚園統一様式)

幼稚園番号	
幼	4

【評定】 4:とても思う(あてはまる) 3:やや思う(あてはまる)
2:あまり思わない(あてはまらない) 1:全く思わない(あてはまらない)

松山市立 荏原 幼稚園

【総合判定】 A:肯定率の平均が90%以上
B:肯定率の平均が60%以上90%未満
C:肯定率の平均が60%未満

園長 稲田 直行

※ 肯定率とは、評定(%)の評定4と評定3の合計値です。 ※ 色が付いているセルのみ入力してください。

評価領域	評価指標	総合判定	対象	肯定率	評定(%)				評定平均	○成果 もしくは ◆改善策
					4	3	2	1		
教育方針・教育計画	幼稚園は、教育目標や重点目標にそった教育活動を行っている。	A	教職員	88	21	67	12	0	3.1	○教師が教育目標を意識して日々の保育や行事等にあたることにより、具現化を図ることができた。
	学校関係者		100	100	0	0	0	4.0		
	幼稚園は、幼児理解に努め発達段階に即した教育・行事を行っている。	A	教職員	92	8	84	8	0	3.0	○一人一人の特性に応じた援助、経験差等を踏まえた指導の工夫等により、日々の保育や園行事等を通して、幼児が安心して明るく伸び伸びと活動する姿が見られた。
	学校関係者		100	100	0	0	0	4.0		
幼稚園は、遊びを通しての総合的な指導を行い、援助・環境構成の改善に取り組んでいる。	A	教職員	89	19	70	11	0	3.1	○PDCAサイクルを機能させ、その時期の幼児の実態に沿った内容となるよう、計画・運営することにより、教師の援助や環境口径の改善を図ることができた。	
学校関係者		100	100	0	0	0	4.0			
幼稚園は、地域に根ざした特色ある教育を行い、郷土を大切に思う幼児の育成に努めている。	B	教職員	75	8	67	25	0	2.8	○地域行事の参加を増やし、地域人材を活用した園行事を新たに実施することにより、地域のの人に親しみをもたせることができた。 ◆地域の人と触れ合う体験活動を充実する。	
学校関係者		100	88	12	0	0	3.9			
人権・同和教育	幼稚園は、人権・同和教育の視点に立ち、一人一人を大切に、自分も友達も大事にする意識や態度を育てている。	A	教職員	97	44	53	3	0	3.4	○教師が、幼児理解に努め、一人ひとりに丁寧に関わることなどにより、幼児に自己肯定感や相手を思いやる心などが育ってきている。
			学校関係者	100	75	25	0	0	3.8	
安全管理	幼稚園は、幼児にけがや事故防止について適切な指導を行うとともに、安全な環境づくりに努めている。	A	教職員	92	45	47	8	0	3.4	○毎月避難訓練を実施することで、子どもたちに災害等に対する行動の仕方が身に付いてきている。
			学校関係者	100	63	37	0	0	3.6	
保健管理	幼稚園は、家庭と連携をして個々の健康状態を確認するとともに、健康、安全な生活に必要な習慣や態度が身に付くように指導を行っている。	A	教職員	100	39	61	0	0	3.4	○保護者から家庭での様子を聞くとともに、教師間の連携を図ることにより、幼児の健康状態を総合的に判断して、園での遊びや保育環境を配慮することができた。
	学校関係者		100	100	0	0	0	4.0		
	幼稚園は、換気や手指衛生などの基本的な感染症対策を必要に応じて行っている。	A	教職員	100	42	58	0	0	3.4	○感染症の流行が予想されるときは特に、手指消毒や換気、手洗いうがいの徹底に気を付けた。
	学校関係者		100	100	0	0	0	4.0		
特別支援教育	幼稚園は、幼児一人一人の特性に応じた配慮や指導を適切に行っている。	A	教職員	86	36	50	14	0	3.2	○個別的教育支援計画、指導計画を作成し、教職員はもとより保護者や療育機関と情報を共有して援助を行うことができています。
			学校関係者	100	75	25	0	0	3.8	
教師間連携	幼稚園は、教職員間で共通の目的に向かって協力的に保育に取り組んでいる。	A	教職員	86	36	50	6	8	3.1	○幼児に関する情報を、関わる全ての教師間で共有するとともに、保育内容等をチームで話し合っ保育に当たれるよう努めることができた。
			学校関係者	100	63	37	0	0	3.6	
研修	幼稚園は、様々な教育課題への対応に向けて、積極的に研修に取り組んでいる。	B	教職員	72	27	45	23	5	2.9	○研修主任を中心とした園内外の研修を通して、力量を高める努力ができた。 ◆事例収集する難しさがあるので、教師間の連携を図りICTを活用して取り組む。
			学校関係者	100	88	12	0	0	3.9	
保護者・地域との連携・情報提供	幼稚園は、教育活動の充実に向けて地域や保護者と連携・協力している。	A	教職員	81	28	53	11	8	3.0	○送迎時、園庭開放等の時間を利用して、どの保護者にも幼児の園での姿や育ちを伝えるとともに、情報交換を行うことによって、保護者との信頼関係を築くことができてきている。
	学校関係者		100	88	12	0	0	3.9		
	幼稚園は、園だよりやクラスだより、ホームページ、Instagram等により積極的に情報を発信している。	B	教職員	74	26	48	22	4	3.0	○幼児が学ぶ姿をホームページやInstagramなどで毎日発信することで、家庭や地域に開かれた園づくりにつながっている。 ◆Instagram等のタイムリーな情報発信。
	学校関係者		100	100	0	0	0	4.0		
幼保小連携	幼稚園は、小学校への円滑な移行に向けて、学びの連続性を保障するために関係園・校で連携を図っている。	B	教職員	70	25	45	30	0	3.0	○昨年度作成した架け橋カリキュラムを実施する際、事前の打ち合わせや事後の振り返りを行い、改善に取り組むことができています。 ◆幼から小への学びの連続性を啓発する。
			学校関係者	100	63	37	0	0	3.6	
子育て支援	預かり保育は、幼児の生活リズムを踏まえ、無理のない活動を取り入れつつ、保護者ニーズに対応している。	A	教職員	100	42	58	0	0	3.4	○預かり保育は、穏やかな雰囲気の中で、異年齢の子どもが安心して過ごせており、子どもたちも楽しみにしている。保護者も安心して預けることができています。
			学校関係者	100	50	50	0	0	3.5	
	幼稚園は、地域の子育て支援の充実に向けて取り組んでいる。	B	教職員	67	17	50	25	8	2.8	○子育て支援事業を通じ、保護者の方が安心して子育てできる環境づくりと、幼稚園への円滑な入園に向けた支援を行うことができた。 ◆諸機関や地域資源について理解を深める。
			学校関係者	100	63	37	0	0	3.6	